


令和5年度 「地域連携型学校防災体制等構築推進事業」における視察調査  
実施報告書

宮城県立金成支援学校

研修先	千葉県立東金特別支援学校
研修日程	令和5年8月1日
視察内容	<p><u>千葉県立東金特別支援学校</u></p> <p>1. 学校概要</p> <p>千葉県立東金特別支援学校は、昭和48年4月、千葉県内初の知的障害を対象とする養護学校として発足した。千葉県東部、九十九里平野の中東部にあり、太平洋から8km、海拔8mの場所に位置している。防災教育を始めたきっかけは、教職員の「児童生徒にとって安全な学校を作りたい」という思いから、平成22年度に内閣府防災チャレンジプランに応募したことである。翌平成23年度に内閣府防災チャレンジプランをスタートさせた。</p>  <div data-bbox="1043 846 1410 1249"><p><b>学校の概要</b></p><ul style="list-style-type: none"><li>・所在地 千葉県東金市 北之幸谷502</li><li>・創立 昭和48(1973)年開校</li><li>・学校規模 小学部42名、中学部10名、 高等部68名、計132名</li></ul></div> <p>学校規模(R5.8.1 現在) 小学部42名、中学部46名 高等部67名、計155名</p> <p>この間、平成23年3月11日に東日本大震災が発生する。地震が起きた時間帯が児童生徒の下校時間に重なり、児童生徒の大切な命を守るため、防災教育の必要性を改めて認識し、防災をきっかけに地域と連携を強化することとなった。防災教育以外でも東京オリンピック、パラリンピックを契機に、オリパラ教育も盛んである。</p> <p>2. あたりまえ防災</p> <p>(1)被災地訪問</p> <p>平成23年3月11日、東日本大震災が発生する。震災後、生徒会役員が東北の被災地を訪問した際、被災者と直接、話をする機会があり、自分たちに何かできることはないか尋ねたところ、「防災をすることがあたりまえになるように勉強してください。そして学んだことを周りにも広めてください。」と言われる。これを契機に、「あたりまえ防災」がスタートした。</p> <p>「あたりまえ防災」は、①東北の被災地を思う気持ち(豊かな心)②正しい知</p>

識(確かな学力)③体で覚える(健やかな体)④それを楽しく(続ける)⑤日常生活に(いつ来るかわからない)という5つの観点の下、生徒会中心に児童生徒主体の活動として実施されることになった。

### (2)「あたりまえ防災」ソング

被災地を訪問した生徒会の生徒を中心に児童生徒により「あたりまえ防災」が始まり、当時、流行していた「あたりまえ体操」のメロディを使用した「あたりまえ防災」ソングを作り、全校集会などの場で踊るようになった。歌詞は、地震のときはダンゴムシのようなポーズをとって身を守ることや、逃げる際に靴を履くことの大切さを伝える内容。全校集会で定期的に生徒と教諭が歌って踊る姿が“当たり前”になった。また、全国の防災コンクールなどで発表する機会を得て、多くの学校から反響があった。



(上)「あたりまえ防災Ⅱ」～ぼくらの合い言葉  
～ (東金特別支援学校公式 YouTube より)

### (3)「あたりまえ防災隊」発足

校内でも児童生徒が防災活動が続けることで「自分たちのやっていることを多くの人に知ってもらいたい」「自分たちも地域のためにできることをしたい」という考えを持つようになっていった。こうした中、平成28年度に児童生徒の有志30余名が集まり「あたりまえ防災隊」が発足する。



(上)「あたりまえ防災隊」  
(東金特別支援学校公式 YouTube より)

「あたりまえ防災隊」の発足は、防災に関する知識や実践力を高め、防災教育を推進する児童生徒のリーダーを育成することと、校内行事に加え、地域の防災行事など地域活動に参画し、主体的に行動する態度を養うことを目標にしたものであった。

こうして発足した「あたりまえ防災隊」は防災活動を生徒会から引き継ぎ、以下の活動を実施している。

- ① 避難訓練: 避難のルールや頭を守ることの大切さを伝えるコーナーを担当。児童生徒が行うことで注目度がアップした。
- ② 地域の合同避難訓練への参加。
- ③ 「防災ウォークラリー」の企画運営: 非常食試食ブース、救急法ブース、

段ボールベッドブースなどを運営。地域の大学、高校、子ども会、行政、医療機関と連携した防災活動を実施し、地域の防災力や連携の強化。

- ④ 市内行事への参加:「東金市チャレンジフェスタ」での防災グッズ等の紹介。「東金市防災フェスタ」を東金市と合同で運営。
- ⑤ 「東金市青少年まちづくり活動」と連携して、児童生徒主体で啓発 DVD の配布やステージ発表などを通じた防災まちづくりを展開。
- ⑥ 「あたりまえ防災Ⅱ」の啓発活動:オリジナル防災ソング「あたりまえ防災」を改訂し、CD、DVD化。YouTube でも配信。様々な場所で地域の人に紹介。

### 3. 地域と連携した防災

#### (1)これまでの主な取組

平成23年度の内閣府防災チャレンジプラン開始以来、地域と連携した取組を積極的に行っている。当初の学校による運営は、PTAやあたりまえ防災隊が主となり、児童生徒たちが主体的に防災を通じて町作りに参加し、地域の防災意識を高めようとする姿は、多くの目に触れることとなった。

年度	実施内容	主催者
平成23年度	・地域合同炊き出し ・消防団と合同訓練	学校
平成24年度	・地域合同炊き出し ・消防団と合同訓練 ・避難所開設	PTA
平成25年度	・地域合同炊き出し ・消防団と合同訓練 ・避難所開設 ・ミニ集会実施	PTA
平成26年度	・地域合同炊き出し ・消防団と合同訓練 ・避難所開設 ・ミニ集会実施	PTA
平成27年度	・炊き出し訓練 ・避難所開設 ・ミニ集会実施	学校
平成28年度	・地域と炊き出し	学校
	・消防団との訓練	
	・ウォークラリー ・「あたりまえ防災隊」発足	児童生徒会
平成29年度	・東金市青少年まちづくり活動 ・防災ウォークラリー	あたりまえ防災隊
平成30年度	・東金市青少年まちづくり活動	あたりまえ防災隊

	・防災ウォークラリー	
	・パルシステム東金センター祭り	
	・東金市防災フェスタ	
	・東金市チャレンジドフェスタ	
	・日吉台防災訓練 に参加	
平成31年度 令和元年度	・東金市青少年まちづくり活動	あたりまえ防災隊
	・防災ウォークラリー	
	・パルシステム東金センター祭り	
	・東金市防災フェスタ	
	・東金市チャレンジドフェスタ	
	・日吉台防災訓練 に参加	
令和2年度	・防災ウォークラリー動画配信	
令和3年度	・あたりまえ防災隊通信発行	
	・WEB 会議システムを使用した避難訓練実施	
令和4年度	・WEB 会議システムを使用した避難訓練実施	

一方で新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年度からは、大規模な行事の開催は控え、あたりまえ防災隊も定員を10名程度にした。インターネットを活用した動画配信や、ウェブ上での会議システムによる避難訓練などを実施するなど、模索中である。

## (2)防災ウォークラリー

新型コロナ以前の地域に開かれた形での防災行事は、校外の多くの諸機関の協力を得ることとなり、東金市消防防災課をはじめ、医療機関、保健士、地域のボランティア部会、子ども会、高校、大学などと連携していった。こうして開催されたのが「防災ウォークラリー」である。あたりまえ防災隊と関係諸機関が共同で運営し、東金特別支援学校の敷地を会場に、避難所設置訓練、新聞紙スリッパ作り、段ボールベッド体験、VR津波体験、AED操作体験、救急法体験、起震車体験、テント設置、非常食試食体験、防災シアター(防災劇)など様々なブースを回りながら、災害時に必要な知識や技能を身に付けられるよう工夫されている。コロナ前は、毎年200人を超える来校者があり、地域と一緒に災害について考える機会となっている。

## 4 受賞歴

- ・平成23年度 ぼうさい甲子園「だいじょうぶ賞」受賞
- ・平成24年度 ぼうさい甲子園高校生部門「奨励賞」受賞
- ・平成25年度 ぼうさい甲子園高校生部門「大賞」受賞
- ・平成26年度 ぼうさい甲子園高校生部門「奨励賞」受賞
- ・平成27年度 ぼうさい甲子園「だいじょうぶ賞」受賞
- ・平成28年度 ぼうさい甲子園「だいじょうぶ賞」受賞

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度 ぼうさい甲子園「教科アイデア賞」受賞 第22回防災まちづくり大賞「総務大臣賞」受賞</li> <li>・平成30年度 防災功労者内閣総理大臣表彰受賞 ぼうさい甲子園「だいじょうぶ賞」受賞</li> <li>・令和元年度 ぼうさい甲子園「優秀賞」受賞</li> <li>・令和2年度 ぼうさい甲子園「奨励賞」受賞</li> <li>・令和3年度 ぼうさい甲子園「優秀賞」受賞</li> </ul>
<p>本校の防災教育に 役立つ具体案</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おかしもち」などの児童生徒に親しみやすい標語。</li> <li>・「あたりまえ防災」の理念について、教職員及び児童生徒への浸潤を踏まえた上での防災教育や自主的な防災体制の構築。</li> <li>・学校や消防署、総合支所など、学校近隣の諸機関への働き掛けと協力体制の構築。</li> <li>・ICTの活用。</li> </ul>